Q14　図工における配慮

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

図工が大好きなA君。工作の時間となると決まって職員室にやって来ます。先生たちの机の上や整理棚の中から多色刷りの紙を見つけます。多色刷りの紙にこだわりがあるのです。そして、それを丸めて怪獣を作ったり、ジェットコースターを作ったりします。他の人の紙でも、自分の工作の材料にしてしまいます。その都度注意しても、また同じことの繰り返しです。

このように、自閉症の子どもには、状況に関係なく自分の興味に没頭することがあります。また自閉症の子どもの一部には、図工で必要とされる技能や道具の操作が苦手な子どもがいます。そのために、表現することの達成感が育ちにくい場合もあります。

〈このような場合の支援　1〉

小学校２年生の知的障害を伴う自閉症の男児。工作の時間、はさみの使い方やのり付けがうまくできません。まだ十分に、はさみやのりを使う技術力が育っていないので、みんなと同じように仕上げることができません。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

① 先生と一緒に切ったり、のり付けたりして作品を作る。
② 机間支援をしながら、少しでも頑張っている様子がみられたら称賛の声かけをする。
③ 工作時には、仕上げるまでの順番を紙に書いて分かるようにしておく。
④ 机のまわりの友だちにも、時々声掛けして励ましてもらう。
⑤ 日頃から、一人で作業が出来ない場合や、困った時に手助けを求める言葉や方法を指導しておく。

〈このような場合の支援　2〉

小学校６年生の高機能自閉症の男児。特定のマークに興味を持っていて、図工の時間にはそればかり描いています。授業の内容に関係するものを描くよう指示するのですが、何度も言うと、いらいらして席を離れてしまいます。興味のあるものの絵なら描くこともあります。また、下絵はとても上手に描きますが、彩色の段階で色を塗って乾かないうちに次の色を塗るため、色が混ざり合って、上手に描いた下絵が何の絵か分からないほどに真っ黒になってしまいます。本人はでき上がった作品を見て悔しがります。このような場合、支援の方法として以下のようなことが考えられます。

⑥ 特にこだわりのあるマークに関しては、「デザイン」という観点から指導の手を入れて、図工の時間に描かせることも大切。
⑦ 下絵が上手に描けたことを称賛する。
⑧ 下書きで描いた線を意識して、色を塗る練習をする（練習用の紙を別に用意しておく方法もある）。
⑨ 教師と一緒に色を塗る順番を決める。
⑩ ひとつの色を塗り終わったら、乾くまで休むという流れを覚える。このような手順できれいに仕上げる経験を積み重ねる。

学級担任の記録（メモ）

＜項目の利用回数＞

月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子